

平成 19 年生まれ

いとし亥年 今年の主役は私たち

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。今年「亥年」です。未来を担う子どもたちの中で亥年生まれの方を紹介いたします。



加藤 優奈さん (居小6年)



出は、水泳で25m泳げるようになったこととお泊まり会「みんなで楽しく過ごせたことです。」

松田 収司くん (訓小5年)



昨年は、8月に開かれた野球の全道大会で準優勝したことが思い出に残っています。昨年は打率が3割だったので、今年は5割打てるように練習をがんばります。

高橋 文翔くん (訓小5年)



出は、サッカー少年団で北見地区1位になりトロフィーをもらったことです。今年、苦手な国語の漢字を書けるように勉強をがんばりたいです。

平塚 志菜さん (居小5年)



アイヌ民族の文化が好きで、昨年の学芸会の劇で演じられてうれしかったので、思い出に残っています。今年、児童会や勉強などいろいろなことをがんばります。

訓子府の未来を

担う子どもたち

原口 紗綾さん (居小5年)



昨年の思い出は、「お泊まり会」で子どもから大人までみんなでキャンプファイアをしたことです。今年、6年生になるので、低学年の Handbook になるようにがんばりたいです。

菅野 蒼太くん (訓小5年)



昨年の思い出は、野球で全道大会と北日本大会に行ったことです。今年、野球で全道と全国の大会に行くこと、宿題をしっかりできるようにがんばりたいと思います。

三上 寧音さん (訓小5年)



昨年は、宿泊学習でカレーを作ったことが楽しかったので、思い出に残っています。今年、苦手な算数に力を入れて勉強を一生懸命がんばりたいです。

北原 龍くん (訓小5年)



昨年の思い出は、8月の野球の全道大会で準優勝したことです。今年、6年生になるので、昨年の6年生のように全道大会で良い結果を残せるようにがんばりたいです。

山内 一紗さん (訓小5年)



昨年は、図工の授業で自分の想像通りの作品を作れたことがうれしくて思い出に残っています。今年、何事にも恥ずかしがらずに取り組むことを目標にがんばりたいです。

渡辺 歓くん (居小5年)



昨年の思い出は、全校児童で心を一つにして取り組んだ学芸会です。今年、6年生になるので、いつも明るく低学年に優しく6年生になれるようにがんばります。



より開かれた議会をめざし



訓子府町議長
上原 豊茂

明けましておめでとうございます。日ごろから町議会に対するご理解とご支援に対し深く感謝申し上げます。

昨年は、基幹産業である農業が、6月中旬からの低温と長雨の影響により各作物に生育障害が発生し、小麦、タマネギは平年並み程度の作物となったものの他の農作物では、平年を下回る厳しい年となりました。

また、9月6日に発生した北海道胆振東部地震では、全道全域に及ぶブラックアウトと呼ばれる大規模停電により、本町におきましても、酪農家をはじめ地域経済などにも大きな被害を受けました。

あらためて、自然の脅威さらには防災・減災のための備えの大切さを認識した年でもありました。

この地震により被災された方々にお見舞いを申し上げますとともに、一日も早く安心した生

活を取り戻せますように心よりお祈りいたします。

さて、本町の財政状況につきましては、これまでの財政健全化の成果により改善されている状況にある一方で、依存財源である地方交付税が大きく減少している状況にもあります。

昨年から進められているスポーツセンターの建設工事が、完成をめざして急ピッチで進められておりますが、今後も大型の投資的事業をはじめ、各種施策が展開される予定です。

議会としては、その責務・役割を果たすため、行政とともに知恵を絞りながら、町民の皆さんが安全で安心して住み続けられるまちづくりをめざしてまいります。

また、昨年3月の第1回定例町議会において、議会基本条例を制定し、「町民から信頼される開かれた議会」「町民と共に歩む議会」をめざし歩みを始めたところですが、議会改革や活性化に向け、町民の皆さんの意見や声を十分反映させることができるよう努力してまいりたいと思います。

今後とも、町議会に対し皆さんのより一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

すべての町民にやさしいまちづくり



訓子府町長
菊池 一春

明けましておめでとうございます。

昨年9月に発生した北海道胆振東部地震は、尊い人命を奪い、物的にも甚大な被害をもたらしました。被災されましたすべての方々にお見舞いを申し上げます。

道内外の自治体職員が災害対応の支援に参加しましたが、本町職員8人も被災地のむかわ町、厚真町で支援活動をさせていただきました。

さまざまなことがありましたが、明るい話題として訓子府小学校スクールバンドが第39回全日本リコーダーコンテスト合奏の部で最高賞の花村賞を受賞、KL球友がホクレン旗争奪第36回北海道少年軟式野球選手権大会で準優勝し北日本大会に出場、バレーボール少年団や中学校男子バレーボール部、中学校女子ソフトボール部が地区大会で優勝するなど子どもたちの活躍がめざましい年でした。

喫緊の課題でありましたスポーツセンターの建設も大詰めで迎え、4月のオープンに向けて準備

備が着々と進んでいます。新スポーツセンターでは、さまざまな世代が気軽に健康・体力づくりができる身近な施設として多くの方の利用を期待しています。

また、若者の活動拠点であります青少年研修館「yucca(ユッカ)」も建て替えられたことで、交流や活動がさらに活発になると思います。

高齢者を対象としたハイヤー利用サービスは、自己負担額を引き下げた効果もあり利用者が増加し、町内移動の利便性の向上が図られています。健康の維持を目的とした、百歳体操をはじめとする自発的な取り組みが広がりをみせていることもうれしくなりません。農業分野では平成24年度から推進しています第4次農業基盤整備を着実に進め、農業粗生産額も120億円を超えることができました。

7月には、「第23回全国小さくても輝く自治体フォーラム」が本町で開催され、約600人が集い、学び合いを通じて交流することができました。

今年も本町は「町民こそが主役」「すべての町民にやさしい町づくり」という考え方を中心に、町民の皆さんの参加とお力添えをいただきながら、理想の町づくりへまい進してまいります。